

履修上の注意

•

授業科目配当表

•

卒業要件

1.《情報社会学科》 履修上の注意

令和 7 年度(2025)入学者向け

以下に科目履修にあたっての注意点を挙げる。学生は履修細則と合わせて熟読し、卒業に際し、問題の起こらないよう留意すること。

1. 卒業要件を満たすには、学部規程別表Ⅰ「授業科目表」に記載されている科目のうちから、4年次終了までに、教養科目 44 単位以上、専門科目 80 単位以上、合計 124 単位以上を修得しなければならない。卒業に必要な単位の内訳については「卒業要件一覧表」を参照すること。
2. 履修は「授業科目配当表」に記された配当年次に行うのが標準であるが、自分の所属年次より下の年次に配当されている科目を履修することもできる。早期卒業を希望する場合の情報社会総合演習を除いて、所属より上の年次に配当されている科目を履修することはできない。
3. 1 年間に履修できる単位の上限は 48 単位である。3 年次に進級するためには、2 年次終了までに、卒業に必要な単位のうち 28 単位以上を修得しなければならない。また、4 年次に進級するためには、3 年次終了までに 76 単位以上を修得しなければならない。進級要件を満たし、4 年間で卒業するためには、各年次に 36 単位程度を修得し、4 年次では情報社会総合演習の他、数科目を履修すればよくなるよう計画的に履修することが望ましい。
なお、前年度に 30 単位以上を修得し、かつ、前年度末までの累積 GPA が 3.25 以上の者は、履修上限を超えた履修登録を認めることがある。この条件を満たし、制度の利用を希望する学生は、教務課に申請すること。
4. 1～2 年次に配当されている教養科目は、主として、情報、人文科学、社会科学、自然科学、外国語の 5 つの学問分野から構成されている。また、これとは別に大学卒業後の進路に対する支援を行う目的でキャリア・デザイン科目が設置されている。1～2 年次には、学生はなるべく広い分野にわたる科目を履修することによって視野を広げていくことが望ましい。
5. 専攻別の選択必修科目に関する注意
IT 経営専攻の学生は、教養科目の経営情報システム、経営学概論、イノベーション経営、法学概論、地域コミュニティの 5 科目のうち、3 科目（6 単位）以上を履修しなければならない。
メディアデザイン専攻の学生は、教養科目のコンピュータ画像処理、ICT リテラシー、芸術論、メディア論、プロダクトデザインの 5 科目のうち、3 科目（6 単位）以上を履修しなければならない。
6. 専門科目には情報社会専門科目と心理専門科目がある。情報社会学科の学生は情報社会専門科目を中心に学ぶことになるが、心理専門科目も 20 単位までは卒業に必要な単位として認定される。心理専門科目の配当年次については心理学科の「授業科目配当表」を参照すること。

7. 3・4年次の演習に関する注意

3年次の情報社会一般演習は週1コマ、4年次の情報社会総合演習は週2コマ行われる。4年次には、指導教員と相談しながらテーマを定め、卒業研究を行う。原則として学生は2年間を通して同一の指導教員の演習に所属することになるので、3年次の演習の選択は慎重に行わなければならない。

8. 検定試験による単位認定については、本便覧中の「人間社会学部検定試験単位認定取扱規程」を参照すること。

2. 《情報社会学科》 令和7年度(2025)入学者用授業科目配当表

IT経営専攻

区 分	1 学 年				2 学 年							
	前 期		後 期		前 期		後 期					
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位				
教 養 科 目	情報系科目	◎ コンピュータ演習Ⅰ ICT概論 ネットワーク・リテラシー	2 2 2	◎ コンピュータ演習Ⅱ コンピュータ概論 マルチメディア・リテラシー コンピュータ画像処理 ICTリテラシー	2 2 2 2 2	人工知能入門	2	IT特講	2			
		◎ 英語Ⅰ ※ 日本語Ⅰ ※ 日本語Ⅱ ※ 日本事情Ⅰ	1 2 2 2	◎ 英語演習Ⅰ ※ 日本語Ⅲ ※ 日本語Ⅳ ※ 日本事情Ⅱ ※ コミュニケーション演習 異文化コミュニケーション(海外研修)	1 2 2 2 1 2	◎ 英語2 TOEICⅠ	1 1	◎ 英語演習2 TOEICⅡ	1 1			
	語学系科目											
		ボランティアの研究 人生と職業	2 2	ボランティアの研究	2	インターンシップ	2	インターンシップ	2			
	一般教養科目	キャリア科目										
		一般教養科目	仏教精神Ⅰ ○ 法学概論 ○ 経営情報システム 文化人類学 教育と社会 身近な物理 福祉ビジネス論 体育実技Ⅰ 経済学概論 学問の世界	2 2 2 2 2 2 2 1 2 2	仏教精神Ⅱ 哲学概論 世界の宗教と歴史 政治学概論 ○ 経営学概論 化学と生活 生命の仕組み 心理学入門 自己理解の心理学 体育実技Ⅱ ○ 地域コミュニティ プロダクトデザイン	2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2	○ イノベーション経営 社会学概論 芸術論 フランスの言語と文化 ジェンダー論 日本史概論 東洋史概論 日本国憲法 科学技術史 スポーツ文化論 仏教の歴史と思想	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	浄土教の歴史と文化 簿記特講 メディア論 英語圏文化論 中国の言語と文化 数理基礎 脳と行動 人体の構造と機能及び疾病 西洋史概論	2 2 2 2 2 2 2 2 2		
			計	36	計	45	計	28	計	24		
			専 門 科 目	情報社会専門科目	◎ 基礎演習Ⅰ	2	◎ 基礎演習Ⅱ	2	◎ プロジェクト演習Ⅰ	2	◎ プロジェクト演習Ⅱ	2
					◎ 情報学概論 商品企画開発 音楽情報演習 デジタルデザイン演習Ⅰ 音楽とメディア 映像と音楽 スポーツビジネス	2 2 2 2 2 2 2	情報社会と倫理 プログラミングⅠ デジタルデザイン演習Ⅱ テクノロジーと音楽 ビジネス会計 デジタルサウンド演習	2 2 2 2 2 2	コンピュータ・ネットワーク データサイエンス プログラミングⅡ 古代中国の言語と文化 情報関連法 アート批評論Ⅰ デザイン演習 Webデザイン演習 観光ビジネス デジタル映像表現 情報社会特講Ⅰ 情報社会特講Ⅱ 情報社会特講Ⅲ マーケティング 映像環境論 情報デザイン	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	情報セキュリティ 経営データ分析 民法 行政学 現代社会と倫理 空間構成演習 3DCG演習 映像文化論 アート批評論Ⅱ 企業と業界の分析 システム設計概論 サウンド・プログラミング演習 音楽文化論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
計				16	計	14	計	34	計	28		
計				52	計	59	計	62	計	52		

(注記1) 必選欄の◎印は、必修科目を示す。

ただし、聴覚に障害をもつ学生は、英語演習Ⅰに代えて

*印の科目を履修することができる。

(注記2) 必選欄の○印は、選択必修科目を示す。

教養科目の法学概論、経営学概論、経営情報システム、地域コミュニティ、

イノベーション経営の5科目のうち、3科目(6単位)が選択必修である。

区 分	3 学 年				4 学 年			
	前 期		後 期		前 期		後 期	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
教 養 科 目	語学系科目							
	ビジネス英語入門	1	英語記事・論文読解	1				
	キャリアと自立	2	一般教養特講 現代社会理解	2				
	デザイン科目							
教 養 科 目	一般教養科目							
	地理学	2						
	計	5	計	5	計	0	計	0
専 門 科 目	◎ 情報社会一般演習Ⅰ	2	◎ 情報社会一般演習Ⅱ	2	◎ 情報社会総合演習Ⅰ	4	◎ 情報社会総合演習Ⅱ	4
	ものづくり経営	2	マルチメディア特講	2				
	知的財産権法	2	Webビジネス	2				
	現代社会と宗教	2	ビジネス関連法	2				
	映像制作演習	2	法学応用演習	2				
	情報社会特講Ⅳ	2	国際関係論	2				
	プロモーション戦略	2	地誌学	2				
	システム管理	2	情報メディア演習	2				
			消費者理解の心理学	2				
			情報社会特講Ⅵ	2				
			ベンチャービジネス	2				
			会社法	2				
			情報社会特講Ⅴ	2				
			データサイエンス演習	2				
	計	16	計	28	計	4	計	4
	計	21	計	33	計	4	計	4

【IT経営専攻】

(注記3) 必選欄の※印は、留学生の履修科目を示す。

(注記4) 必選欄の空白は、選択科目を示す。

(注記5) 必選欄の※印は、聴覚に障害をもつ学生の履修科目を示す。

(注記6) 心理専門科目については、心理学科の配当表を参照。

(注記7) 各年次の科目配当は、前後期での変更が発生する場合があるので注意すること。

※【再履修科目】

前 期	
必選	授業科目
◎	情報社会総合演習Ⅱ(再)
	4

2. 《情報社会学科》 令和7年度(2025)入学者用授業科目配当表

メディアデザイン専攻

区 分	1 学 年				2 学 年			
	前 期		後 期		前 期		後 期	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
情報系科目	◎ コンピュータ演習Ⅰ	2	◎ コンピュータ演習Ⅱ	2	人工知能入門	2	IT特講	2
	ICT概論	2	コンピュータ概論	2				
	ネットワーク・リテラシー	2	マルチメディア・リテラシー	2				
			○ コンピュータ画像処理	2				
			○ ICTリテラシー	2				
語学系科目	◎ 英語Ⅰ	1	◎ 英語演習Ⅰ	1	◎ 英語2	1	◎ 英語演習2	1
	※ 日本語Ⅰ	2	※ 日本語Ⅲ	2	TOEICⅠ	1	TOEICⅡ	1
	※ 日本語Ⅱ	2	※ 日本語Ⅳ	2				
	※ 日本事情Ⅰ	2	※ 日本事情Ⅱ	2				
			* コミュニケーション演習	1				
教養科目	ボランティアの研究	2	ボランティアの研究	2	インターンシップ	2	インターンシップ	2
	人生と職業	2						
一般教養科目	仏教精神Ⅰ	2	仏教精神Ⅱ	2	イノベーション経営	2	浄土教の歴史と文化	2
	法学概論	2	哲学概論	2	社会学概論	2	簿記特講	2
	経営情報システム	2	世界の宗教と歴史	2	○ 芸術論	2	○ メディア論	2
	文化人類学	2	政治学概論	2	フランスの言語と文化	2	英語圏文化論	2
	教育と社会	2	経営学概論	2	ジェンダー論	2	中国の言語と文化	2
	身近な物理	2	化学と生活	2	日本史概論	2	数理基礎	2
	福祉ビジネス論	2	生命の仕組み	2	東洋史概論	2	脳と行動	2
	体育実技Ⅰ	1	心理学入門	2	日本国憲法	2	人体の構造と機能及び疾病	2
	経済学概論	2	自己理解の心理学	2	科学技術史	2	西洋史概論	2
	学問の世界	2	体育実技Ⅱ	1	スポーツ文化論	2		
			地域コミュニティ	2	仏教の歴史と思想	2		
			○ プロダクトデザイン	2				
	計	36	計	45	計	28	計	24
情報社会専門科目	◎ 基礎演習Ⅰ	2	◎ 基礎演習Ⅱ	2	◎ プロジェクト演習Ⅰ	2	◎ プロジェクト演習Ⅱ	2
	◎ 情報学概論	2	情報社会と倫理	2	コンピュータ・ネットワーク	2	情報セキュリティ	2
	商品企画開発	2	プログラミングⅠ	2	データサイエンス	2	経営データ分析	2
	音楽情報演習	2	ビジネス会計	2	プログラミングⅡ	2	民法	2
	デジタルデザイン演習Ⅰ	2	デジタルデザイン演習Ⅱ	2	情報関連法	2	行政学	2
	音楽とメディア	2	テクノロジーと音楽	2	古代中国の言語と文化	2	現代社会と倫理	2
	映像と音楽	2	デジタルサウンド演習	2	アート批評論Ⅰ	2	空間構成演習	2
	スポーツビジネス	2			デザイン演習	2	3DCG演習	2
					Webデザイン演習	2	映像文化論	2
					観光ビジネス	2	アート批評論Ⅱ	2
					デジタル映像表現	2	企業と業界の分析	2
					情報社会特講Ⅰ	2	システム設計概論	2
					情報社会特講Ⅱ	2	サウンド・プログラミング演習	2
					情報社会特講Ⅲ	2	音楽文化論	2
					マーケティング	2		
					映像環境論	2		
					情報デザイン	2		
	計	16	計	14	計	34	計	28
	計	52	計	59	計	62	計	52

(注記1) 必選欄の◎印は、必修科目を示す。

ただし、聴覚に障害をもつ学生は、英語演習Ⅰに代えて

*印の科目を履修することができる。

(注記2) 必選欄の○印は、選択必修科目を示す。

教養科目のコンピュータ画像処理、ICTリテラシー、

芸術論、メディア論、プロダクトデザインの5科目のうち3科目(6単位)が選択必修である。

区 分	3 学年				4 学年			
	前 期		後 期		前 期		後 期	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
教養科目	ビジネス英語入門	1	英語記事・論文読解	1				
	キャリアと自立	2	一般教養特講 現代社会理解	2				
	地理学	2						
	計	5	計	5	計	0	計	0
専門科目	◎ 情報社会一般演習 I	2	◎ 情報社会一般演習 II	2	◎ 情報社会総合演習 I	4	◎ 情報社会総合演習 II	4
	ものづくり経営	2	マルチメディア特講	2				
	知的財産権法	2	Webビジネス	2				
	現代社会と宗教	2	ビジネス関連法	2				
	映像制作演習	2	法学応用演習	2				
	情報社会特講Ⅳ	2	国際関係論	2				
	プロモーション戦略	2	地誌学	2				
	システム管理	2	情報メディア演習	2				
			情報メディア演習	2				
			消費者理解の心理学	2				
			情報社会特講Ⅵ	2				
			ベンチャービジネス	2				
			会社法	2				
			情報社会特講Ⅴ	2				
			データサイエンス演習	2				
	計	16	計	28	計	4	計	4
	計	21	計	33	計	4	計	4

【メディアデザイン専攻】

(注記3) 必選欄の※印は、留学生の履修科目を示す。

(注記4) 必選欄の空白は、選択科目を示す。

(注記5) 必選欄の※印は、聴覚に障害をもつ学生の履修科目を示す。

(注記6) 心理専門科目については、心理学科の配当表を参照。

(注記7) 各年次の科目配当は、前後期での変更が発生する場合があるので注意すること。

※【再履修科目】

前 期	
必選	授業科目
◎	情報社会総合演習Ⅱ(再)
	4

3. 《情報社会学科》 卒業要件一覧表

【令和7年度(2025)】入学者適用

区 分	必修	選択必修	選択	合計
教養科目	8単位	6単位	30単位	44単位
専門科目	22単位	—	58単位	80単位
合計	30単位	6単位	88単位	124単位

1. 《心理学科》 履修上の注意

令和7年度(2025)入学者向け

以下に科目履修にあたっての注意点を挙げる。学生は履修細則と合わせて熟読し、卒業に際し、問題の起こらないよう留意すること。

1. 卒業要件を満たすには、学部規程別表Ⅰ「授業科目表」に記載されている科目のうちから、4年次終了までに、教養科目 44 単位以上、専門科目 80 単位以上、合計 124 単位以上を修得しなければならない。卒業に必要な単位の内訳については「卒業要件一覧表」を参照すること。

2. 履修は「授業科目配当表」に記された配当年次に行うのが標準であるが、自分の所属年次より下の年次に配当されている科目を履修することもできる。早期卒業を希望する場合の総合研究演習を除いて、所属より上の年次に配当されている科目を履修することはできない。

3. 1 年間に履修できる単位の上限は 48 単位である。3 年次に進級するためには、2 年次終了までに、卒業に必要な単位のうち 28 単位以上を修得しなければならない。また、4 年次に進級するためには、3 年次終了までに 76 単位以上を修得しなければならない。進級要件を満たし、4 年間で卒業するためには、各年次に 36 単位程度を修得し、4 年次では総合研究演習の他、数科目を履修すればよくなるよう計画的に履修することが望ましい。

なお、前年度に 30 単位以上を修得し、かつ、前年度末までの累積 GPA が 3.25 以上の者は、履修上限を超えた履修登録を認めることがある。この条件を満たし、制度の利用を希望する学生は、教務課に申請すること。

4. 教養科目について

教養科目については、広く深い見識を身につけることを目的として、多岐にわたる学問領域の科目が設定されている。必修科目に設定されている英語や情報系の科目は必ず配当年次に履修すること。

5. 心理専攻科目について

専門科目のうち「心理専門科目」については、その専門性により年次配当がなされている。また、専攻ごとに必修科目と選択必修科目とが設置されている。必修科目については、必ず配当年次に履修し単位を修得することが重要である。選択必修科目については、各専攻の指定科目のうち 10 科目以上の単位を修得しなければならない。

6. 演習・実験などの科目について

心理専門科目の必修科目として各年次に設定されている以下の科目は、心理学科における主要な科目である。授業の概要や進め方について第 1 回目の授業で詳しく説明されるので、必ず出席すること。

- a) 基礎演習Ⅰ・Ⅱ（1 年次）

心理学入門と位置づけられる演習科目であり、心理学科の複数の教員がそれぞれ異なる内容を指導する。学生は基礎演習のみに使用される少人数クラス（班と呼ぶ）に分けられる。各授業で使用する教室があらかじめ決まっているので、毎回指定された教室に行くことになる。

b) 心理学実験・心理演習（2年次）

心理学実験は心理学的な実験について、心理演習は心理検査やコミュニケーションについての知識や技法を実践的に学ぶ科目である。いずれも心理学科の複数の教員がそれぞれ異なる内容（種目と呼ぶ）を指導する。学生はこれらの科目のみに使用される少人数クラス（班と呼ぶ）に分けられる。各種目で使用する教室が固定されているので、毎回指定された教室に行くことになる。

c) 一般実験演習Ⅰ・Ⅱ（3年次）

担当教員の指導のもとに専門的研究を行う科目である。一般実験演習は、基礎演習と心理学実験、心理演習の修得単位数について一定の基準を満たした者のみ履修できる。また、一般実験演習の担当教員は、2年次末に学生の希望を調査し、その結果に基づき学科で決定する。教員によって講義番号が異なるので、最終的に決定した担当教員の科目を履修すること。

d) 総合研究演習Ⅰ・Ⅱ（4年次）

総合研究演習Ⅰ・Ⅱは週2コマの授業として行われる。この科目では、担当教員の指導のもとに、卒業研究、または卒業研究に相当する研究成果の報告書を作成する。通常3年次の一般実験演習から担当教員の変更はないので、一般実験演習と同じ教員の科目を履修すること。

7. 情報社会専門科目について

専門科目のうち「情報社会専門科目」については、20単位までが卒業に必要な単位として認定される。情報社会専門科目の配当年次については、情報社会学科の授業科目配当表を参照すること。

8. 選択科目について

選択科目を選ぶにあたり、はじめから興味のある領域の科目のみにしぼってしまうのは、大学で学ぼうとて好ましいことではない。広い範囲の科目をバランスよく履修するよう心がけること。

9. 検定試験による単位認定について

検定試験による単位認定については「人間社会学部検定試験単位認定取扱規程」を参照すること。

10. 認定心理士について

（公社）日本心理学会による認定心理士の資格の取得を希望する者は、単位認定基準に従い指定科目を履修する必要があるので注意すること。

11. 公認心理師指定科目について（臨床心理専攻）

公認心理士の資格取得を目指す臨床心理専攻の学生は、学部規程別表Ⅳ「公認心理師指定科目表」に記載されているすべての科目を履修しなければならない。公認心理師資格試験の受験資格を取得するには、これらすべての科目の単位を学部在籍中に修得しなければならないため、十分に注意すること。

12. 心理実習Ⅰ・Ⅱ（臨床心理専攻）

3年次配当科目の心理実習は、臨床心理専攻の学生のみが履修できる。この授業は通年で開講されるため、Ⅰ・Ⅱのどちらか片方のみの履修はできない。履修希望者に対しては、それまでの授業態度や成績及び課題等を踏まえ、前年次末までに履修の可否を学科で判定する。

2. 《心理学科》 令和7年度(2025)入学者用授業科目配当表

ビジネス心理専攻

区 分	1 学 年					2 学 年				
	前 期		後 期			前 期		後 期		
	授業科目	単位	授業科目	単位		授業科目	単位	授業科目	単位	
教養科目	情報系科目	◎ コンピュータ演習Ⅰ	2	◎ コンピュータ演習Ⅱ	2	人工知能入門	2	IT特講	2	
		ICT概論	2	コンピュータ概論	2					
		ネットワーク・リテラシー	2	マルチメディア・リテラシー	2					
	語学系科目	◎ 英語1	1	◎ 英語演習1	1	◎ 英語2	1	◎ 英語演習2	1	
		※ 日本語Ⅰ	2	※ 日本語Ⅲ	2	TOEICⅠ	1	TOEICⅡ	1	
		※ 日本語Ⅱ	2	※ 日本語Ⅳ	2					
		※ 日本事情Ⅰ	2	※ 日本事情Ⅱ	2					
			異文化コミュニケーション(海外研修)	2						
			* コミュニケーション演習	1						
	デザイン科目	ボランティアの研究	2	ボランティアの研究	2	インターンシップ	2	インターンシップ	2	
人生と職業		2								
一般教養科目	仏教精神Ⅰ	2	仏教精神Ⅱ	2	イノベーション経営	2	浄土教の歴史と文化	2		
	法学概論	2	哲学概論	2	社会学概論	2	簿記特講	2		
	経営情報システム	2	世界の宗教と歴史	2	芸術論	2	メディア論	2		
	文化人類学	2	政治学概論	2	フランスの言語と文化	2	英語圏文化論	2		
	身近な物理	2	経営学概論	2	ジェンダー論	2	中国の言語と文化	2		
	福祉ビジネス論	2	化学と生活	2	日本史概論	2	数理基礎	2		
	体育実技Ⅰ	1	生命の仕組み	2	東洋史概論	2	脳と行動	2		
	経済学概論	2	心理学入門	2	日本国憲法	2	人体の構造と機能及び疾病	2		
	学問の世界	2	自己理解の心理学	2	科学技術史	2	西洋史概論	2		
			教育と社会	2	スポーツ文化論	2				
		体育実技Ⅱ	1	仏教の歴史と思想	2					
		地域コミュニティ	2							
		プロダクトデザイン	2							
	計	34	計	47	計	28	計	24		
情報社会専門科目	◎ 心理学概論Ⅰ	2	◎ 心理学概論Ⅱ	2	◎ 心理学実験	2	◎ 心理演習	2		
	◎ 基礎演習Ⅰ(学習法基礎)	2	◎ 基礎演習Ⅱ(課題演習)	2	◎ 心理学研究方法基礎(心理学研究法Ⅰ)	2	○ 心理調査概論	2		
	◎ 心理学統計法Ⅰ	2	◎ 心理学統計法Ⅱ	2	◎ ビジネス心理学	2	言語心理学(学習・言語心理学Ⅱ)	2		
					知覚心理学(知覚・認知心理学Ⅰ)	2	○ 教育心理学	2		
					臨床心理学(臨床心理学概論)	2	○ 福祉心理学	2		
					深層心理学	2	精神疾患とその治療	2		
					学習心理学(学習・言語心理学Ⅰ)	2	現代社会と倫理	2		
					○ 認知心理学(知覚・認知心理学Ⅱ)	2	発達心理学	2		
					○ 社会心理学	2				
					公認心理師の職責	2				
				関係行政論	2					
	計	6	計	6	計	22	計	16		
	計	40	計	53	計	50	計	40		

区 分	3 学 年				4 学 年			
	前 期		後 期		前 期		後 期	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
教養科目	心理学系科目							
	ビジネス英語入門	1	英語記事・論文読解	1				
	キャリアと自立	2	一般教養特講 現代社会理解	2				
	地理学	2						
専門科目	計	5	計	5	計	0	計	0
	◎ 一般実験演習Ⅰ	2	◎ 一般実験演習Ⅱ	2	◎ 総合研究演習Ⅰ	4	◎ 総合研究演習Ⅱ	4
	○ 心理学的支援法	2	○ 心理学研究法応用(心理学研究法Ⅱ)	2				
	○ 心理データ解析法	2	○ 消費者理解の心理学	2				
情報社会専門科目	○ 健康・医療心理学	2	○ 神経・生理心理学	2				
	○ 産業心理学(産業・組織心理学)	2	○ 動機づけと情動(感情・人格心理学Ⅰ)	2				
	○ 犯罪心理学(司法・犯罪心理学)	2	○ 人格心理学(感情・人格心理学Ⅱ)	2				
	○ 障害者・障害児心理学	2	○ 学校臨床心理学(教育・学校心理学)	2				
	○ 社会・集団・家族心理学	2	○ ビジネス心理講義演習	2				
	○ コミュニケーション技法	2						
	○ 心理的アセスメントⅠ	2						
	○ 心理的アセスメントⅡ	2						
	○ 現代社会と宗教	2						
	計	24	計	16	計	4	計	4
	計	29	計	21	計	4	計	4

【ビジネス心理専攻】

(注記1) 必選欄の◎印は、必修科目を示す。

(注記2) 必選欄の空白は、選択科目を示す。

(注記3) 必選欄の○印は、専攻別選択必修科目を示す(10科目選択)。

(注記4) 必選欄の※印は、留学生の履修科目を示す。

(注記5) 必選欄の*印は、聴覚に障害をもつ学生が履修できる科目を示す。

(注記6) 情報社会専門科目については、情報社会学科の配当表を参照せよ。

(注記7) 各年次の科目配当は、前後期での変更が発生する場合があるので注意すること。

※【再履修科目】

	前 期
必 選	授業科目
◎	総合研究演習Ⅱ(再)

2. ≪心理学科≫ 令和7年度(2025)入学者用授業科目配当表

臨床心理専攻

区 分	1 学 年				2 学 年			
	前 期		後 期		前 期		後 期	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
教 育 科 目	情報系科目							
	◎ コンピュータ演習Ⅰ	2	◎ コンピュータ演習Ⅱ	2	人工知能入門	2	IT特講	2
	ICT概論	2	コンピュータ概論	2				
	ネットワーク・リテラシー	2	マルチメディア・リテラシー	2				
			コンピュータ画像処理	2				
			ICTリテラシー	2				
	語学系科目							
	◎ 英語1	1	◎ 英語演習Ⅰ	1	◎ 英語2	1	◎ 英語演習2	1
	※ 日本語Ⅰ	2	※ 日本語Ⅲ	2	TOEICⅠ	1	TOEICⅡ	1
	※ 日本語Ⅱ	2	※ 日本語Ⅳ	2				
教 育 科 目	※ 日本事情Ⅰ	2	※ 日本事情Ⅱ	2				
			異文化コミュニケーション(海外研修)	2				
			* コミュニケーション演習	1				
	デザイン科目							
	ポランディアの研究 人生と職業	2 2	ポランディアの研究	2	インターンシップ	2	インターンシップ	2
	一般教養科目							
	仏教精神Ⅰ	2	仏教精神Ⅱ	2	イノベーション経営	2	浄土教の歴史と文化	2
	法学概論	2	哲学概論	2	社会学概論	2	簿記特講	2
	経営情報システム	2	世界の宗教と歴史	2	芸術論	2	メディア論	2
	文化人類学	2	政治学概論	2	フランスの言語と文化	2	英語圏文化論	2
教 育 科 目	身近な物理	2	経営学概論	2	ジェンダー論	2	中国の言語と文化	2
	福祉ビジネス論	2	化学と生活	2	日本史概論	2	数理基礎	2
	体育実技Ⅰ	1	生命の仕組み	2	東洋史概論	2	脳と行動	2
	経済学概論	2	心理学入門	2	日本国憲法	2	● 人体の構造と機能及び疾病	2
	学問の世界	2	自己理解の心理学	2	科学技術史	2	西洋史概論	2
			教育と社会	2	スポーツ文化論	2		
			体育実技Ⅱ	1	仏教の歴史と思想	2		
			地域コミュニティ	2				
			プロダクトデザイン	2				
	計	34	計	47	計	28	計	24
情報社会専門科目	◎ ● 心理学概論Ⅰ	2	◎ 心理学概論Ⅱ	2	◎ ● 心理学実験	2	◎ ● 心理演習	2
	◎ 基礎演習Ⅰ(学習法基礎)	2	◎ 基礎演習Ⅱ(課題演習)	2	◎ ● 心理学研究法基礎(心理学研究法Ⅰ)	2	◎ 心理調査概論	2
	◎ ● 心理学統計法Ⅰ	2	◎ ● 心理学統計法Ⅱ	2	ビジネス心理学	2	● 言語心理学(学習・言語心理学Ⅱ)	2
					● 知覚心理学(知覚・認知心理学Ⅰ)	2	○ 教育心理学	2
					◎ 臨床心理学(臨床心理学概論)	2	○ 福祉心理学	2
					● 深層心理学	2	○ 精神疾患とその治療	2
					● 学習心理学(学習・言語心理学Ⅰ)	2	現代社会と倫理	2
					● 認知心理学(知覚・認知心理学Ⅱ)	2	● 発達心理学	2
					● 社会心理学	2		
					● 公認心理師の職責	2		
情報社会専門科目					● 関係行政論	2		
	計	6	計	6	計	22	計	16
	計	40	計	53	計	50	計	40

区 分	3 学 年				4 学 年			
	前 期		後 期		前 期		後 期	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
教 養 科 目	ビジネス英語入門	1	英語記事・論文読解	1				
	キャリアと自立	2	一般教養特講 現代社会理解	2 2				
	地理学	2						
	計	5	計	5	計	0	計	0
専 門 科 目	◎ 一般実験演習Ⅰ ○ ● 心理学の支援法 心理データ解析法 ○ ● 健康・医療心理学 ● 産業心理学(産業・組織心理学) ○ ● 犯罪心理学(司法・犯罪心理学) ○ ● 障害者・障害児心理学 ○ ● 社会・集団・家族心理学 コミュニケーション技法 ○ ● 心理的アセスメントⅠ ○ ● 心理的アセスメントⅡ ○ ● 心理実習Ⅰ 現代社会と宗教	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2	◎ 一般実験演習Ⅱ ◎ 心理学研究法応用(心理学研究法Ⅱ) 消費者理解の心理学 ● 神経・生理心理学 2 ○ ● 動機・気づきと情動(感情・人格心理学Ⅰ) ○ ● 人格心理学(感情・人格心理学Ⅱ) 2 ○ ● 学校臨床心理学(教育・学校心理学) ビジネス心理講読演習 ○ ● 心理実習Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 1	◎ 総合研究演習Ⅰ	4	◎ 総合研究演習Ⅱ	4
	計	25	計	17	計	4	計	4
	計	30	計	22	計	4	計	4

【臨床心理専攻】

- (注記1) 必選欄の◎印は、必修科目を示す。
(注記2) 必選欄の空白は、選択科目を示す。
(注記3) 必選欄の○印は、専攻別選択必修科目を示す(10科目選択)。
(注記4) 必選欄の※印は、留学生の履修科目を示す。
(注記5) 必選欄の※印は、聴覚に障害をもつ学生が履修できる科目を示す。
(注記6) ●印は、公認心理師指定科目を示す。
(注記7) 情報社会専門科目については、情報社会学科の配当表を参照せよ。
(注記8) 各年次の科目配当は、前後期での変更が発生する場合があるので注意すること。

※【再履修科目】

前 期	
必選	授業科目
◎	総合研究演習Ⅱ(再)

3. ≪心理学科≫ 卒業要件一覧表

【令和7年度(2025)】入学者適用（ビジネス心理専攻）

区 分	必修	選択必修	選択	合計
教養科目	8単位	—	36単位	44単位
専門科目	32単位	20単位	28単位	80単位
合計	40単位	20単位	64単位	124単位

【令和7年度(2025)】入学者適用（臨床心理専攻）

区 分	必修	選択必修	選択	合計
教養科目	8単位	—	36単位	44単位
専門科目	34単位	* _{注1} 20単位	* _{注1} 26単位	80単位
		* _{注2} 19単位	* _{注2} 27単位	
		* _{注3} 18単位	* _{注3} 28単位	
合計	42単位	* _{注1} 20単位	* _{注1} 62単位	124単位
		* _{注2} 19単位	* _{注2} 63単位	
		* _{注3} 18単位	* _{注3} 64単位	

*注1 実習科目を履修しない場合

*注2 実習科目を1科目履修する場合

*注3 実習科目を2科目履修する場合

教育プログラム

1. SAIKOデータサイエンスプログラム

「SAIKOデータサイエンスプログラム」は、データサイエンスを基礎から体系的に学ぶことで、現代社会で必要とされるデータ分析スキルを身につけることをとした教育プログラムです。

特に、AIやビッグデータを活用した問題解決能力を養うことで、幅広い分野でのキャリアの可能性が広がります。

本プログラム（リテラシーレベル）は、文部科学省が定める一定の要件を満たした、優れた教育プログラムであることを認定されています（認定有効期限：2029年3月31日）。

そのため、修了者はデータサイエンスやAIに対して優れた素養を持っていることが対外的に認められます。就職活動などにおいても、その知識・スキルをアピールできるでしょう。



1. 1 プログラムの目的

- ・社会において、さまざまなデータが蓄積・活用されていることを知る
- ・データの分析・活用事例を学ぶ
- ・データを扱うために注意すべき事項を身につける
- ・専門課程にて必要なデータ分析能力の基礎を身につける



文科省 HP

1. 2 身につけることができる能力

- ・社会においてどのようにデータが活用されているか、発見する能力
- ・データが活用できる場面を発見し、手法を検討する能力
- ・新たに現れる手法に対応する能力



本学 HP

1. 3 プログラム履修方法・修了要件

本プログラムが定める学科別の科目を履修登録することで、プログラムを履修していることになります。

学部	学科※1	科目名	開講学年	必選別※2
工学部	情報システム学科	ICTリテラシー(1)	1	必須
		人工知能入門(1)	1	
	機械工学科	ICTリテラシー(2)	3	必須
	生命環境化学科	人工知能入門(2)	2	選択(推奨)
人間社会学部	情報社会学科	ICTリテラシー(3)	1	必須
	心理学科	人工知能入門(2)	2	選択(推奨)

各科目の開講時間・配当学年は、シラバス・時間割を参照してください。

※1 総合工学系の学生は、配属後の学科となります。

※2 プログラム修了のための必須/選択であり、卒業・進級要件とは異なります。

「選択」科目はプログラム修了に必須ではありませんが、本プログラムの目的から履修を推奨します。

1. 4 修了証

修了要件の授業科目を修得することで、本プログラム修了者として認定されます。

修了者には修了証を交付します。交付については、LiveCampusUで別途お知らせします。